

2022年4月27日(水)  
第6回全体会合(事例報告パートIV-2)  
2022年度CN人材育成WG全体会合事例報告:  
地域連携・一般向け

# 東京都市大学における CN人材育成

佐藤真久

東京都市大学環境学部／  
サステナビリティ学研究連携センター教授

# 東京都市大学の紹介



数字で見る  
東京都市大学

- **1929年創立**（旧武蔵工業大学）
- **7学部**（理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部、環境学部、メディア情報学部、都市生活学部、人間科学部）
- **2研究科**（総合理工学研究科、環境情報学研究科）
- **2キャンパス**（世田谷、横浜）
- **学生数 7,667人, 卒業者数 110,801人**（2021年9月7日時点）
- **理念: 持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究**
- **SDGsに取り組む研究室数 801**（延べ）
- **海外留学者数 470人**（2019年）、**海外インターンシップ参加者数73人**
- **留学生派遣数: 10位**（朝日新聞出版 大学ランキング2021）
- **有名企業400社就職率: 全国1位**  
2020年卒、卒業生数1,500人以上2,000人未満（大学通信調べ）
- **民間企業からの受託研究件数: 11位**（117件） 文部科学省調査

# 学長あいさつ

DEX

つ

理念・目的

育

構成

次

各種データ)

ンヨン

等掲載情報



いま世界では、2015年の国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け「leave no one behind」（誰ひとり取り残さない）を合言葉に、17のグローバル目標と169のターゲットへの取り組みが進められております。国際社会が共通の目標を設定しなくてはならないということは、裏を返せば、私たち人類の抱える課題がますます高度化、複雑化、グローバル化していることの表れでもあります。

本学では、このSDGsの達成に向けて大学運営の隅々までを見直すとともに、教育面では、入学から卒業までの間にどれくらい能力を高めることができたかを教育効果の尺度とする「Best Value University」（教育付加価値最大の大学）の観点に加え、誰ひとり取り残さない「教育支援体制」を構築するため、一人ひとりの学生と一層真摯に向き合うことを宣言して、優れた専門性と実践力、そして国際性という揺るぎない「価値」を備えた人材の育成に邁進しております。また研究面では、未来都市研究機構を設置して、都市が抱える様々な課題の解決にデジタルテクノロジーの進歩を取り込む「アーバンデジタルトランスフォーメーション（UDX）」の実現に向けた研究を推進するとともに、7学部17学科・2研究科8専攻の全研究室が自ら取り組む目標を学外へ発信してSDGsへのコミットメ

# 教育面での見直し: シラバス



東京都市大学  
シラバス

- すべての学部で講義科目にSDGsとの関係を表示
- 学生、教員がSDGsとの関係を常に意識、確認

The screenshot shows a web browser displaying the Tokyo City University website. The main content area is titled "地域の具体的な課題および実践知の教授" (Local specific issues and practical knowledge of teaching). It lists 17 Sustainable Development Goals (SDGs) in a grid format. Below the list, there are numbers 1, 3, 4, 8, 9, and 11, and the number 17 is centered at the bottom. A "PAGE TOP" button is visible in the bottom right corner.

No	書籍名/Title	著者/Authors	出版社/Publisher	出版年/Year	ISBN/ISSN	備考/Note
1						
3						
4						
8						
9						
11						
17						



# 研究面での見直し: 研究者一覧

- 全研究員の最近の研究成果をe-bookで公開
- 研究成果とSDGsとの関係を明示。対外的な発信に加えて教員間の連携に活用

基礎研究

基礎研究

**デザイン、技術、フィールドワークで地域を活性化**

**キーワード** 情報デザイン、地域活性化、ロボット、パーソナルファブ리케이션、UX、UI、情報の可視化、グラフィックファシリテーション、宇宙科学教育

**最近の研究テーマ**

- 地域活性化研究: リビングラボ、コミュニティスペースなどに参加し、デザインの手法を使って地域を活性化すること。
- ソーシャルロボット研究: 小型ロボット「マクボット」を製作して、人間の生活の中で活動させ、ロボットに何が求められているかを明らかにすること。
- 情報の可視化研究: インフォグラフィックスなど情報をグラフィックスで伝えること。
- パーソナルファブ리케이션研究: 3Dプリンターなどの小型工作機械の普及による個人のファブ리케이션の調査、実践。
- 宇宙科学教育: 超小型人工衛星、小型ロケットなどの開発を他学部と協働しながら行い、宇宙に関心を持つ人材を養成すること。

**技術の特徴**

グラフィックファシリテーションによる地域ワークショップ主催、デザインシンキングによる発想法、地域フィールドワーク、ソーシャルロボット、IoTシステムプロトタイプ提案、3Dプリンターなどを使ったプロトタイプ提案、教育用小型模擬人工衛星の開発。

**企業等との連携可能テーマ**

- ソーシャルロボットのフィールドワーク、デザイン、導入支援、ロボットを使った教育ワークショップ
- まちづくり、地域コミュニティ、リビングラボなどの提案、グラフィックファシリテーションによる地域ワークショップの主催
- インフォグラフィックスによる統計情報などの可視化のデザイン



教授  
**小池 星多**  
メディア情報学部  
社会メディア学科  
小池研究室  
(情報デザイン)



ソーシャルロボット「マクボット」

**技術の用途**

行政、企業でのデザインシンキングワークショップ、グラフィックファシリテーションを使ったワークショップ運営、ソーシャルロボットのデザイン、科学体験教室運営、水精製ワークショップ運営。

**知的財産権・関連論文情報・著書**

- 小池星多、リックテレコム、おしゃべりロボット、「マクボット」、2016
- 小池星多他、新報社、越境する対話と学び: 異質な人・組織・コミュニティ、2015

**研究内容と目指すもの**

人間中心の視点でデザイン研究、実践をしています。個別的なアプローチにもとづいて、実際に地域コミュニティなどに参加し、活動し、フィールドワークすることで人間と物やシステムとの関係を研究しています。その上で人間中心の機器、情報システム、環境のデザインを提案します。現在は、地域でリビングラボなどの実際の活動に参加することを通して、自分の生活している地域で、ものづくりなど自分のやりたい仕事を作ろうとしている人々に関心を持ち、近未来の地域での働き方、生活の仕方、企業、行政のあり方など、地域活性化のデザインについて研究、実践しています。また、宇宙に関心を持つ人材を養成する宇宙科学教育を他学部と行っています。

**外部資金**

- 平成20-30年度 基盤研究(C)コミュニティで活動するためのソーシャルロボットのデザイン 代表
- 平成25-28年度 基盤研究(C) ソーシャルロボットのデザイン方法の研究 代表

TCU 2020 RESEARCH DIRECTORY

詳しい情報はコチラから確認できます



研究室HP 研究者情報

基礎研究

基礎研究

**調査報道の可能性と限界**

**キーワード** メディアとジャーナリズム、調査報道の可能性と限界、インターネット時代の取材組織

**最近の研究テーマ**

「リクルート事件」「大阪地検特捜部検事による証拠改ざん事件」など日本の調査報道も輝かしい成果を出してきました。2010年から現在にかけて、調査報道取材に関わったジャーナリストらに綿密なインタビューを続けているほか、内外の論文等を精査し、調査報道取材に共通する要素を探究しています。成果の一部は「権力VS調査報道」(2011)、「権力に迫る『調査報道』」(2016)などにおいて、先行的に世に送り出しています。

また、調査報道に関する新しい組織(フロントラインプレス)を立ち上げて代表を担い、研究だけでなく、実践での応用にも取り組むなど、適切なジャーナリズム活動を通じ、公正・自由・平和な民主主義社会の維持と実現に貢献しています。

**技術の特徴**

取材プロセスの分析を通じ、調査報道取材のノウハウの深化と共通化を探究しています。それを通じて、新聞、テレビ、ネットなどメディア企業等の枠を超えて調査報道がさらに日本に根付くことを目指しています。

**企業等との連携可能テーマ**

- ネットメディア、マスコミ、ジャーナリズムに関する事例分析
- 調査報道の歴史、その可能性と限界
- インターネット時代とニュースの関わりに関する事例分析



教授  
**高田 昌幸**  
メディア情報学部  
社会メディア学科  
高田研究室  
(ジャーナリズム)



**技術の用途**

調査報道取材の方法の共有化を進め、ジャーナリズム界、メディア界の取材力向上に寄与することが可能です。

**知的財産権・関連論文情報・著書**

「真実 新聞が買収に陥った日」角川書店 2012 / 「伝える技法」旬報社 2015 / 共著「権力VS調査報道」旬報社 2011 / 「権力に迫る『調査報道』」旬報社 2016 / 山田健太郎共著「現代ジャーナリズム事典」の『調査報道』編 三省堂 2014など。

**研究内容と目指すもの**

取材プロセスの分析を通じ、企業や組織の枠を超えた「取材手法の標準化・共有化」をどう実現させるかを研究しています。日本の報道界は長年、各企業内部で取材ノウハウを蓄積してきましたが、記事や番組などで表出されるジャーナリズム活動が社会の公共財であるなら、本来は取材手法も市民社会の共有財産であるはずですが、伝統的メディアが増えた取材手法、特に調査報道に関するそれを次世代に引き継ぐことは、健全なジャーナリズム、ひいては健全な市民社会を持続させるためにも、大きな意味を持っています。

TCU 2020 RESEARCH DIRECTORY

詳しい情報はコチラから確認できます



研究室HP 研究者情報

# 教育・研究面での見直し： 研究室ガイド

- 全191研究室の横顔を紹介。SDGsとの関係づけも実施
- 学生には研究室配属前の資料として利用。研究室の目標が明示



東京都市大学191  
Laboratories 研究室  
ガイド2021



### 001 機械工学系 内燃機関工学研究室

三原 雄司 教授 | 伊東 明准 准教授 | 及川 昌訓 講師

研究内容: 次世代エンジンの摩擦損失・冷却損失の低減研究 / 高効率水素エンジンの研究

社会への貢献: 高度な実験解析研究力で世界の次世代バートルイン開発に貢献

目指す未来: 超低燃費エンジン及び次世代バートルインの研究拠点へ

### 002 機械工学系 機械力学研究室

横 敏雄 教授 | 櫻井 俊彰 准教授 | 杉町 敬之 准教授

研究内容: 模型実験とシミュレーションから自動車衝突を解明する

社会への貢献: 独自の縮尺模型実験を使って自動車メーカーと共同研究

目指す未来: あらゆる人が安全かつ快適な車社会の実現を目指します

### 003 機械工学系 材料力学研究室

大塚 年久 教授 | 小林 志好 准教授 | 岸本 直貴 准教授

研究内容: 機械構造物の安全性、使いやすさ、高付加価値化の実現

社会への貢献: 将来の社会への貢献を目指した実用可能な技術の開発

目指す未来: 新規開発されたものに生じる新たな構造問題の解決

### 004 機械工学系 流体工学研究室

大上 浩 教授 | 富士原 民雄 准教授 | 西原 光一 准教授

研究内容: 流体の運動に伴う現象や流体機械に関する先端的な研究

社会への貢献: 基礎・応用研究を通じて、最先端技術の開発に貢献

目指す未来: 未知の現象の解明を通じて、豊かな社会の実現を目指す

[リンク](#)

# SDGs教育の具体例

# SDPBL (Sustainable Development Project organized Problem Based Learning)

## 初年次教育をスタートに SD PBL (1) ~ (3) から卒研へとつなぐ



公正・自由・自治の精神で  
自立的に探究を続ける  
東京都市大学の卒業生

自らの問題意識



3~4年生

卒業研究

教養系学修

専門学修

3年生

SD PBL(3)

事例研究

2年生

SD PBL(2)

SD PBL(1)

SD PBL(1) による  
スタートアップ クラス

↑  
1泊2日の  
フレッシューズキャンプ

↑  
入学前  
ワークショップ

自分にとって

- ① 価値があること
  - ② できること
- 見出す => 主体性

都市研究の東京都市大学型  
持続可能な社会の発展を志向する

SD PBL(2)(3) 事例研究・卒業研究

SD : Sustainable Development  
PBL: Project organized Problem Based  
Learning

東京都市大学型 初年次教育  
心に学びの灯をともし  
プログラム

卒業研究	SD PBLと事例研究、 他の授業の学びを統合する
------	------------------------------

全学部混合 SD PBL(3)	多様なステークホルダーと協働し 自分の専門分野を俯瞰して捉える
専門外からの視点を学び、 今までの学び(専門科目や実験や演習) を俯瞰、体系化する。 + 専門外のリサーチメソッド、考え方を学ぶ。	

SD PBL(2)	社会的文脈の中で 学科の学びの立ち位置を理解する
学科の特色と専門性や、 大学の学びと社会とのかかわりを理解する。 + 専門のリサーチメソッドを学ぶ。	

SD PBL(1)	心に学びの灯をともし 持続可能な社会構築に参画する第一歩
自校教育、SDGsの理解、 入学を意味あるものに、協働の理解 + 汎用的リサーチメソッドを学ぶ。	

SDGsの価値観で、ボーダーを超える概念を学び  
自分の可能性を拓き社会変革の意欲を芽生えさせる

# SDGs教育の具体例

## SDPBL (2)

**第1回：導入**  
まちづくりで大切なことのイメージを持ち、チームで共有

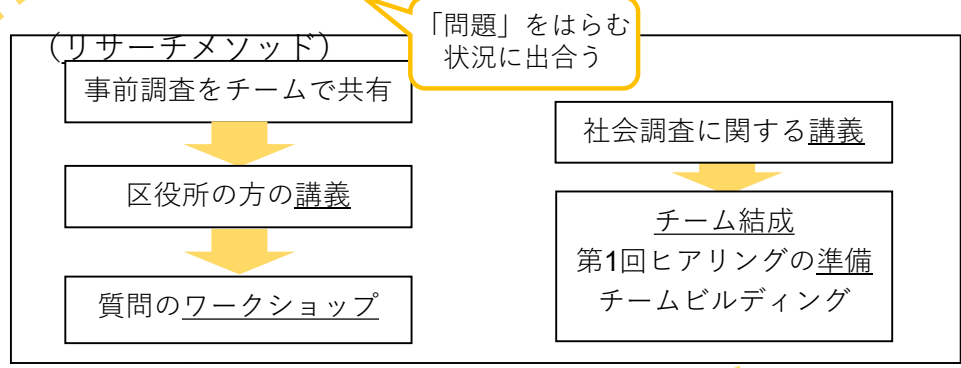
授業の目的、目標、評価の方法、授業の進め方などを説明  
ワークショップ 写真から想起する「未来に向けて残したいコト、変えたいコト」  
 「自分が住みたい町の重要なポイント」を書き出す、宿題：都筑区について調査

テーマへの導入  
「既有知識」や  
「思い」の  
活性化

・自分の問題意識や  
価値観を確認して  
社会の問題につなげる  
・色々な社会問題の  
関連性に気付く



### 第2回：都筑区役所の方の説明 社会調査方法の講義

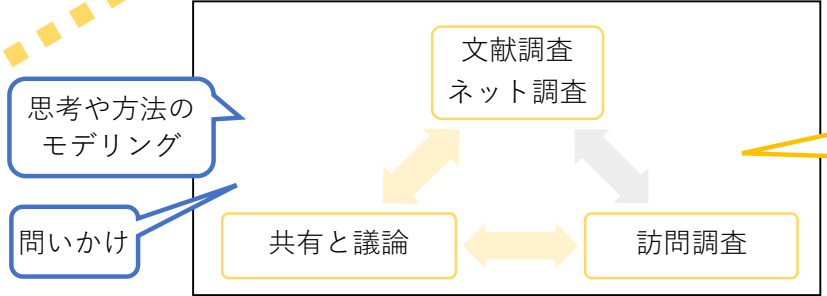


### 第3回：役所訪問・ヒアリング

(以後、毎回の活動をWSに記録)

「知っていること」「考え」  
「調査すべきこと」を  
記述しメタ認知することにより  
問題を捉え直しながら本質に迫る

### 第4～6回：問題の明確化のためのプレ調査と議論



現実社会のある状況から  
問いを立てる

認知的な葛藤や混乱を起こし  
新しい情報を得ることにより  
知識が再構成される

学際性・科目統合性





# SDGs教育の具体例 SDPBL (3)

## 第7回：進捗報告会

発表とブラッシュアップ  
区役所の方からアドバイス

## 第8回：ロジカルツリー手法による

問題分析（リサーチメソッド）  
アクションプランの作成

## 第9回：中間発表会

第10～12回：  
本調査とアクションプラン作成

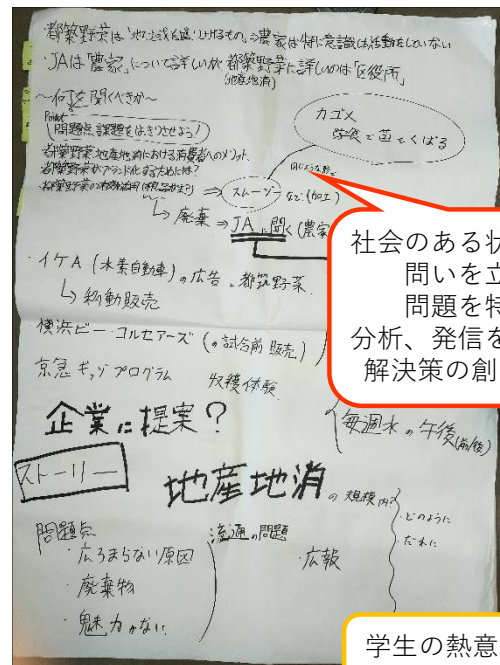
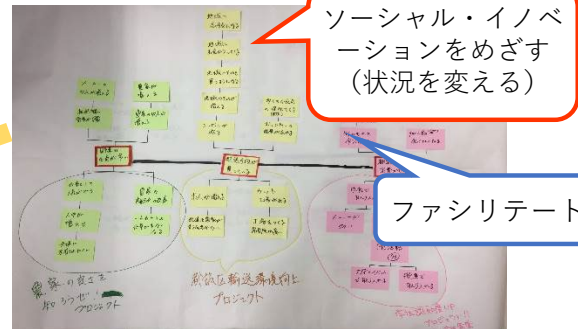
## 第13回：最終発表会とゲストからの評価

区役所、JAの方々が参加

## 第14回：振り返り、アクションの準備

提出：学習ログファイル  
最終レポート

多様な  
ステークホルダーの  
視点に立った解決策



アクション  
オープンキャンパスでブース展示



リサーチメソッド  
知識や理論の  
実践の機会



協働のプロセス体験

取り組んだ問題について  
ステークホルダーを  
交えた議論の機会



# 日本・アジア青少年サイエンス交流事業 さくらサイエンスプログラム

## 持続可能な世界創造のための国際的な科学技術交流

主にアジア地域の学生との科学技術交流を積極的に推進。理工学部・情報工学部・環境学部・都市生活学部を中心に、主にアジア地域の学生を受入れ1～2週間の研修プログラム。

- 2014年5件 (50名)、2015年10件 (97名)
- 2016年8件 (85名)、2017年11件 (112名)
- 2018年14件 (170名)、2019年14件 (149名)
- 2020年13件 (135名) 計75件 (798名)

- 歴史観光都市のランドスケープデザイン提案を通じた国際学術交流
- 都市生活学部がマレーシア工科大学10名を受入



# SDGs教育・研究の具体例



## ASIA-OCEANIA FIVE UNIVERSITIES ALLIANCE (AOFUA)

*\* Big advantage with time difference  
of only two hours*

### Plans:

- **Three programs**  
 Program A: Short Term Exchange Program (STEP)  
 Program B: Double Degree Program (DDP)  
 Program C: Summer Camp Program (SCP)
- **D-Education programs utilizing ICT**
- **Faculty and Staff members exchanges**
- **Research Collaboration**

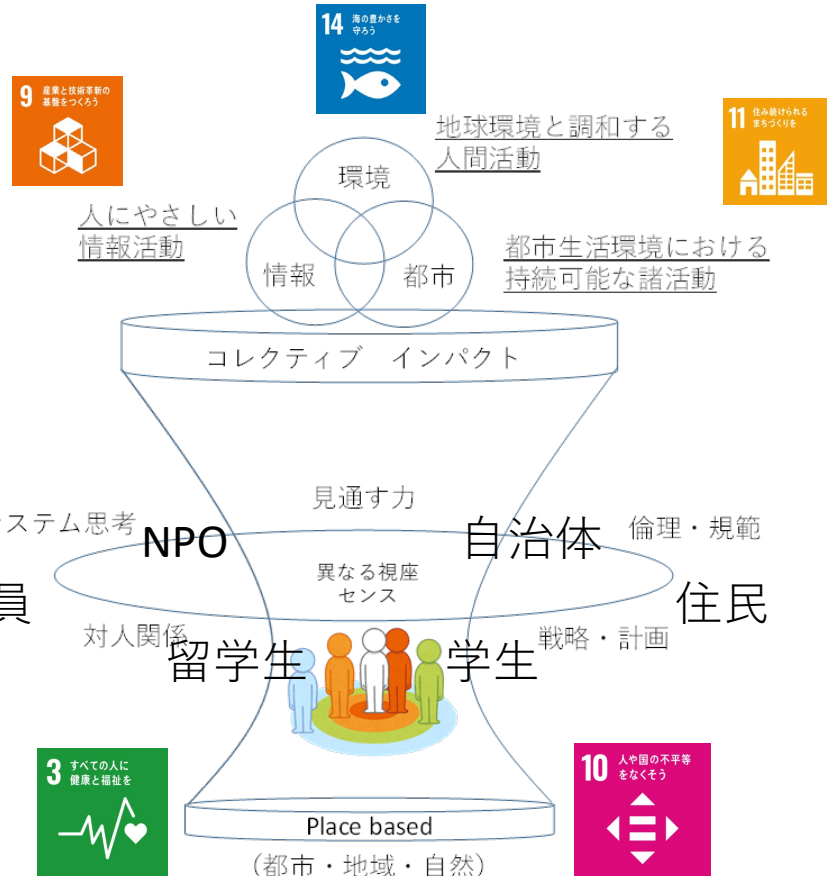
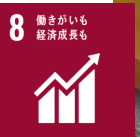




# 2021年度文部科学省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」採択 地球規模の環境・社会問題の解決に貢献する 問題解決型イノベーション人材育成プログラム Global scale innovator program for sustainable society

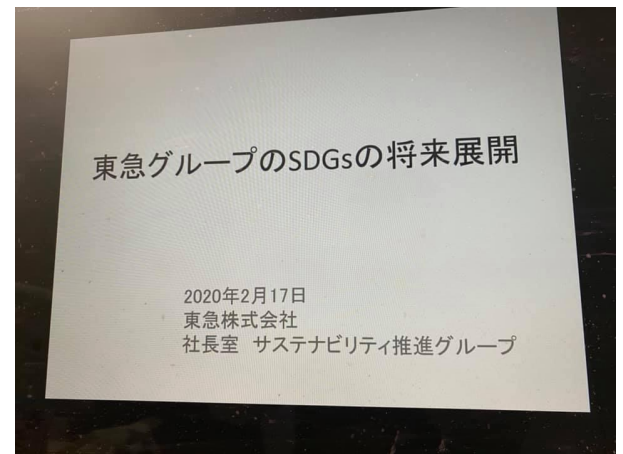
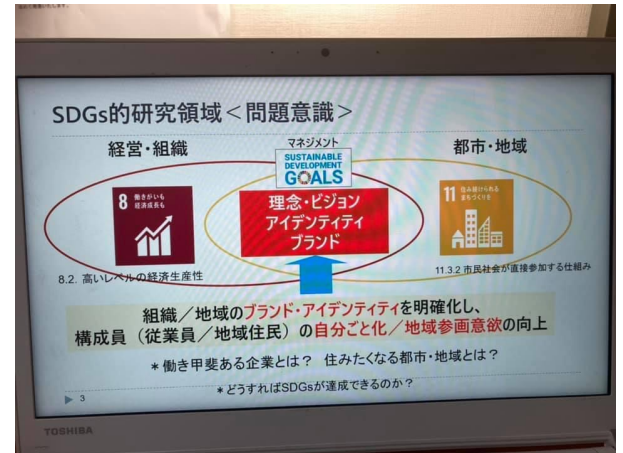


- ASEANから修士2名、博士後期1名毎年受入
- テーマ: 地域創生、地域の問題解決を通して
- アジアの将来を担うイノベーション人材を育成



# SDGsセミナー継続開催

- 大学院環境情報学研究科主催
- 外部講師招聘、学内教員研究成果発表、大学院生・留学生が参加
- 第1回: 佐藤真久 東京都市大学教授
- 第2回: 吉崎真司 東京都市大学副学長
- 第3回: 山成敏彰 東急株式会社  
サステナビリティ推進グループ
- 第4回 清水優子 世田谷区環境政策部長
- 教員間連携、学外連携の機会を創出



東京都市大学大学院  
環境情報学研究科 SDGsセミナー

SDGsの最新動向と  
今後の課題  
SDGsの本質に対応する

@ZOOM  
2020年9月30日  
佐藤真久  
東京都市大学 教授  
m-sato@tcu.ac.jp / masahisasato@hotmail.com

SDGs時代のESDと社会的レジリエンス研究叢書 ①

古川柳蔵・生田博子 編著

在来知と社会的レジリエンス  
サステナビリティに活かす温故知新

筑波書房



東京都市大学  
横浜キャンパス

神奈川県横浜市都筑区牛久保西3丁目3番1号

登録証

登録番号:EC98J1092

ISO 14001:2015・JIS Q 14001:2015

環境・情報に関する教育と研究

当機関は、上記組織が、当該マネジメントシステム  
要求事項に適合していることを証します。

登録日 : 1998年10月28日  
更新日 : 2019年10月28日  
発行日 : 2019年10月16日  
有効期限 : 2022年10月27日

株式会社 日本環境認証機構

東京都港区東横田2-2-19

代表取締役社長 立上和男

# 日本の教育機関で初めてISO14001を認証取得

1998年、本学は日本の大学を含む教育機関として初めて、国際環境規格 ISO14001 の認証を受けました。通称"エコ・キャンパス"は環境に配慮したさまざまな工夫が凝らされています。

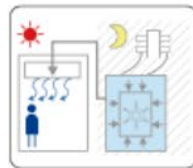
本学のISO活動は学生が主体となって運営されていることが大きな特徴で、最近では学内にとどまらず、学外での活動も積極的に行っています。

また、地域開放型のキャンパスとして、周辺に暮らす住民の方々にも親しまれています。

※ISO14001とは : スイス・ジュネーブに本部がある国際標準化機構による、環境に優しい企業や機関を認定するための環境管理・監査規格。環境に関する方針・目標の設定から、運用、達成状況のチェック、全体の継続的改善までの一連のシステム化が評価の対象となっています。

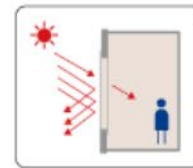


## ISO14001の認証を取得した環境重視のエコ・キャンパス



### 【氷蓄熱式ヒートポンプエアコン】

深夜電力を利用して夏季は蓄熱槽に水を蓄え、その冷たさを冷房運転、冬季はお湯を蓄え、その暖かさを暖房運転に役立てています。



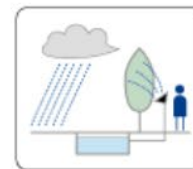
### 【ペアガラス / Low-Eガラス】

外気と温度差が大きい南と北の窓に、二重構造のペアガラスや、特殊コーティングして断熱効果の高いLow-Eガラスを採用。空調効果を高めます。



### 【ソーラーシステム】

体育館の屋根にはソーラーパネルを設置。太陽エネルギーを利用して水を温め、体育館の温水シャワーなどに活用しています。



### 【雨水利用】

雨水を地下の雨水槽に集め、樹木への散水に利用。夏季には体育館の屋根にポンプアップし、散水で温度を下げる有効利用を図っています。



### 【照明計画の工夫】

建物内の照明は普通に使っても無駄



### 【ハイサイド・ライト】

建物内部に自然環境を取り入れ、採光

▶ 3号館1階 31F演習室

▶ フィールド演習室

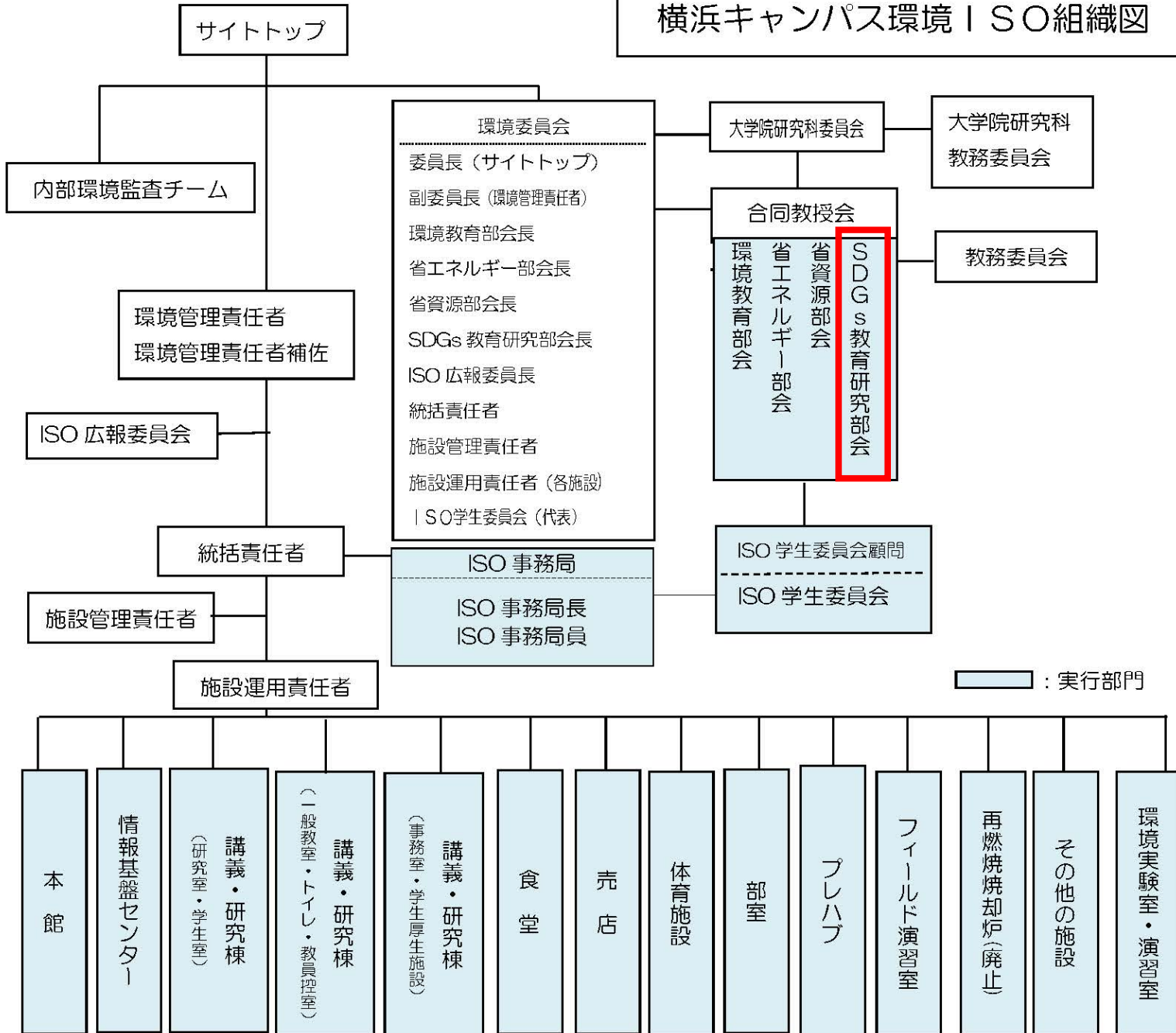
▶ 情報基盤センターYC

▶ 体育館 / 学生食堂 (横浜キャンパス)

▶ 横浜キャンパス図書館

▶ 都市生活学部・人間科学部関連施設

# 横浜キャンパス環境ISO組織図





# IGESとの連携



**目的:** 東京都市大学と地球環境戦略研究機関において、平等互惠の精神に基づき**アジア地域を中心とする国際的な環境協力に関する研究を推進し、両者間の学術交流及び友好協力の一層の促進を図ること**

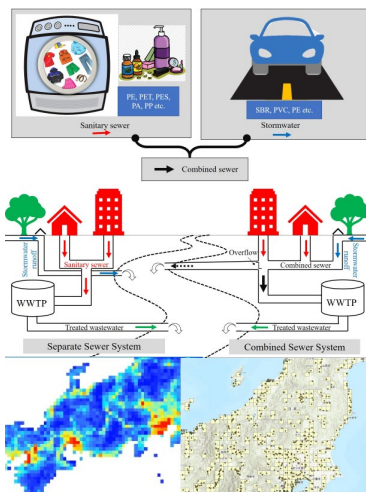
## ■連携協力事項:

- (1) 共同研究プロジェクトの推進
- (2) 学術資料・リサーチレポート等の学術情報の共有
- (3) 学生のインターンシッププログラムの実施
- (4) 講演会・学術セミナーの共催
- (5) 非常勤講師の派遣、客員研究員(フェロー)などの人材交流
- (6) その他政策立案、実務に寄与する活動における協力

12 つくる責任  
つかう責任



アミラアペナヤカ



# 気候変動に適応した住環境を創出

- 建築環境フィールド研修や都市防災の研修
- ネパールの学生を対象に気候変動適応策を教育

環境学部  
リジナルHB教授

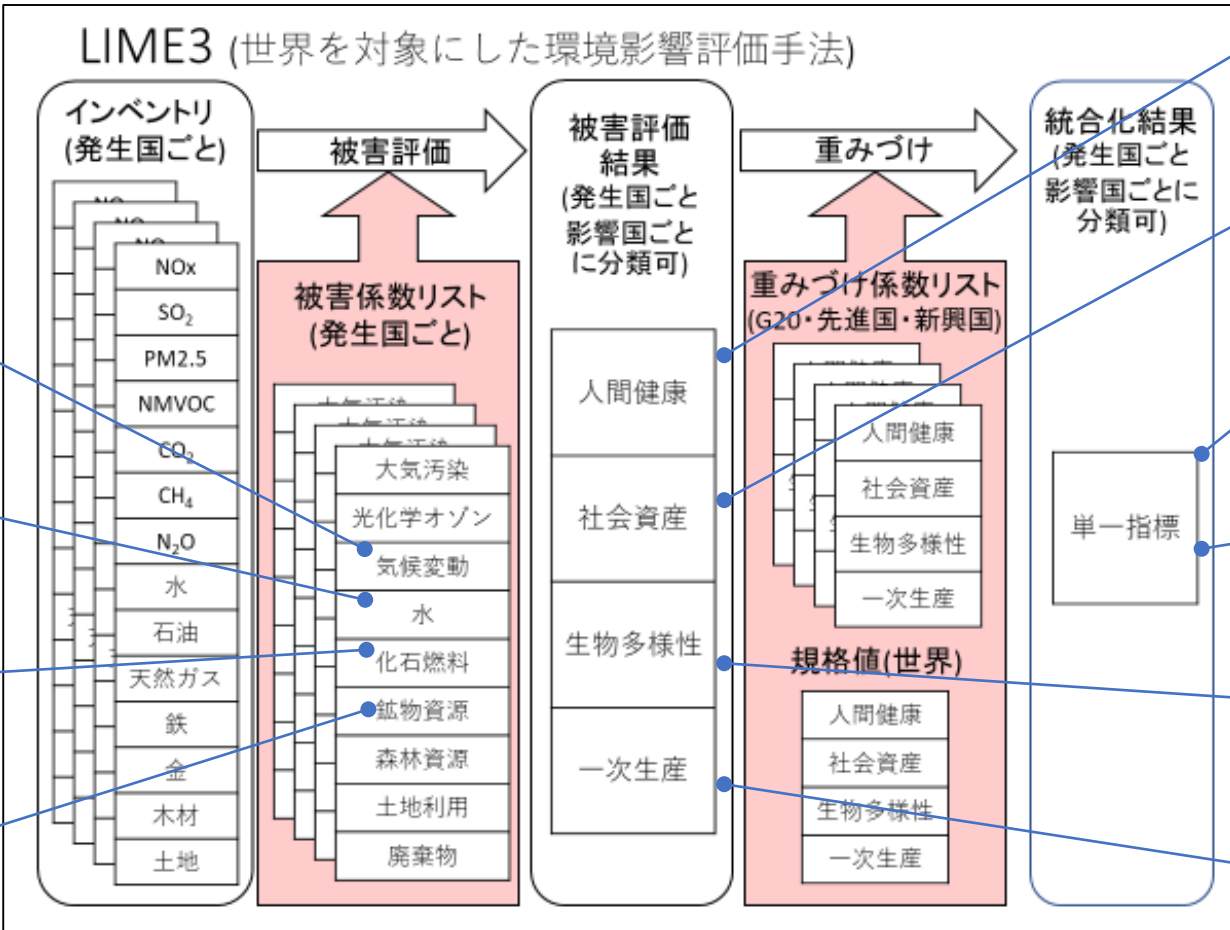


# 多様な環境影響を経済指標で評価



環境学部  
伊坪徳宏教授

- 気候変動の経済評価：カーボンプライシングが注目
- 水、生物多様性、資源消費など多岐に分かれる環境影響を経済評価（経済産業省（1998-2003）、NEDO（2003-2007）、内閣府（2009-2013）、環境省（2014-2019））
- 日本企業による評価事例約500件（東芝、トヨタ、電通など）



13 気候変動に具体的な対策を

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

12 つくる責任 つかう責任

3 すべての人に健康と福祉を

2 飢餓をゼロに

1 貧困をなくそう

8 働きがいも経済成長も

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

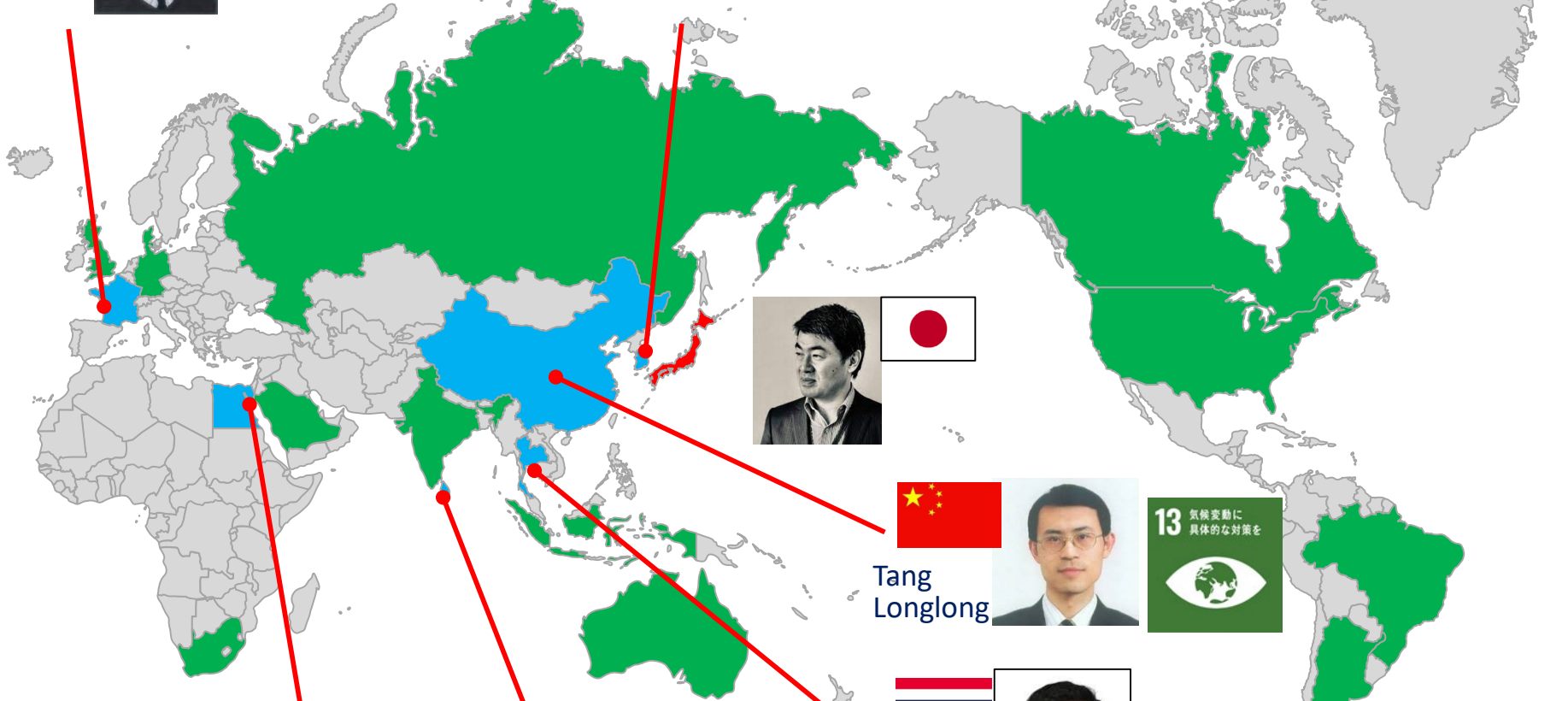
# 影響評価手法の世界標準化



Selim Karkour



Young Deuk Kim



Ahmed AbdelMonteleb  
Mohammed Ali



Amila Abeynayaka



Seksan Papong



Tang Longlong



# MDGs/SDGs構築・促進 への寄与

環境学部  
佐藤真久教授



UN Thematic Consultation on Education in the Post-2015  
“The World We Want 2015” 18-19 March 2013Dakar,  
Senegal



海洋プラスチックごみの削減に向けた  
ASEAN+3ユースワークショップ (主催 ASEAN, 2019年)



「国連・ESDの10年」アジア太平洋地域戦略会議  
(主催:UNESCO、2005年2月)

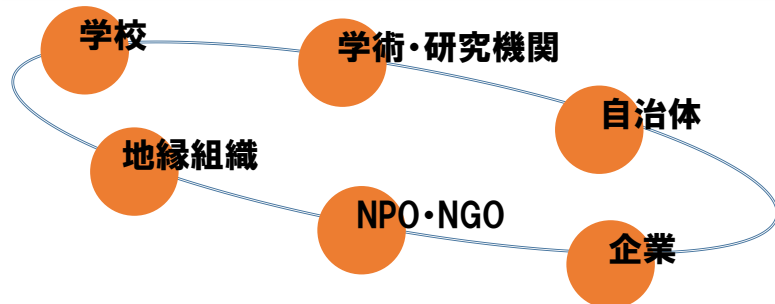
持続可能なライフスタイルに関する10年枠組に基づく、  
変容を促すアプローチに関する国際的議論 (主催:国連平和大学、2018年)

# 横浜市SDGsデザインセンター アカデミック・フォーラム への寄与

環境学部  
佐藤真久教授



ヨコハマ SDGs デザインセンター 



◆**目的**—都市大横浜キャンパスによる横浜市SDGsへの貢献と発信、実践・研究活動の発信

◆**対象**—横浜市市民、企業、関東学院大、神奈川大学、慶應大学、東京都市大学、NPO、小中高教員、自治会、都市大学横浜キャンパス学生

◆**主催**—横浜市SDGsデザインセンター（SDGsアカデミア 学術コーディネーター—佐藤真久）

◆**期待される都市大参加者**—環境学部教員、メディア情報学部教員、横浜キャンパスISO学生委員会

\*\*\*\*\*

◆**実践形態**—ZOOMオンライン、リレートーク、適宜対応

◆**過去実績(2020年度～)**

- 第1回:SDGsと人づくり:みなとみらい本町小学校小正校長/市ヶ尾中学校竹下校長/東高等学校小間物校長/神奈川大学金子学長(2021年1月21日、126人参加)
- 第2回:SDGsとまちづくり:元町SS会近澤氏/コトラボ合同会社岡部氏/市民セクターよこはま吉原氏/川上地区連合町内会高嶋氏(2021年3月9日、121人参加)

# 東南アジア教育大臣機構(SEAMEO) CCEプログラムへの貢献 EE、E-STEAM、ESD、GCED、SEI

環境学部  
佐藤真久教授



**School Culture Of Sustainability**

Since 2019, Global Sevilla Puri Indah already runs some climate action policies to support Gubernatorial Instruction No.107/2019. Everyone in our school has a responsibility and role to play in maintaining climate action policies over time.

1. Reducing and sorting trashes, by prepare sorting trash bins in every corner of the school.
2. Do not allow the use of single-use plastic in the school.
3. Making energy-saving changes to electricity, cooling or lighting systems.
4. Adopting more sustainable office practices.

UNESCO, (2016)

**GUIDE BOOK**

21-28 March 2022

**TRAINING COURSE ON ENVIRONMENTAL EDUCATION FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT**

Southeast Asian Ministers of Education Organization (SEAMEO)  
Regional Centre for Quality Improvement of Teachers and Education Personnel (QITEP) in Science



持続可能な社会の実現をめざす

東京都市大学

# SDGs & CN

カーボンニュートラル

# ACTIONS

持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究を掲げる東京都市大学は、横浜キャンパスで培った研究や教育の全学的な展開をめざしています。

## 東京都市大学での主な取り組み

### 国内大学で初の ISO 14001

横浜キャンパスは開設翌年の1998年に、環境マネジメントシステムの国際規格 ISO 14001を、国内の大学として初めて取得した「エコ・キャンパス」です。



### 自然を活用した環境教育の推進

キャンパスの約3分の1を緑地帯が占め、保全林に沿って遊歩道を整備。実践的な学習の場として活用されるビオトープなども。



### 産官学連携による環境研究の拠点

年間200件を超える産業や自治体からの受託研究や共同研究を通して、環境研究拠点としての研究力を高めるとともに、社会貢献に寄与しています。



### ISO 学生委員会の活動

環境教育、省資源、省エネルギーの3部会で教職員を巻き込んで活動するISO学生委員会。学内外の環境意識向上のためさまざまな発信を行っています。



## 講義動画「SDGsの潮流とカーボンニュートラルの実践」公開中！

東京都市大学のホームページ「SDGsへの取り組み」内に、環境学部の教授陣がSDGsやカーボンニュートラルをわかりやすく講義する動画を公開中。ぜひ視聴ください。



佐藤 真久 教授

- ①サステナビリティ概念の歴史の変遷
- ②SDGsの本質



伊坪 徳宏 教授

- ③気候変動による影響はいくらか
- ④サーキュラーエコノミーで実現する脱炭素社会





# まとめ

- **東京都市大学におけるSDGs活動**について紹介。教育理念とトップマネジメント教育、研究活動について見直すための活動を実施した。全教職員、全学生が確認する機会を得た。
- **SDGsに関わる教育活動**について紹介した。アクティブラーニング、海外協定との連携へと展開するとともに、国費留学生プログラムの採択などへと成果が表れている
- **SDGsに関わる研究活動**について紹介した。国連等国際機関における社会変革、自治体や企業との連携研究、学内の連携研究などパートナーシップの促進につながっている。
- **ISO14001の活用を通してSDGsを教育・研究マネジメント**に活用。カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーといった新しい環境課題を経営課題として積極的に取り組む
- **国際交流**の促進は途上国の問題解決に加えて、国際機関との連携や本邦大学の発展の機会となる。